４　令和６年度ブナ・ナラ豊凶調査結果

（環境企画部）

ブナやナラ類の実り具合が、野生動物の生息や森林生態系の変化に影響を与えていると考えられることから、平成15年度からブナ16箇所（15箇所は豊凶予測及び結果、１箇所は結果のみ）、ミズナラ9箇所、コナラ11箇所について調査を行っている。

(1) 調査方法

調査地に落下物捕捉のためのトラップ（面積1㎡の円形ネット）を5～10個設置し、豊凶予測及び結果の判定を行う。

ブナの豊凶予測は、6月までの雄花の数を集計し、その数から雌花数を推定して判定する。判定の基準は、推定雌花数が350個／㎡以上を豊作、90～350個／㎡未満を並作、90個／㎡未満を凶作予測とする。

また、ブナ及びナラ類の豊凶結果は、回収した実から健全な実を判別し、判定する。豊凶の判定については、ブナは200個／㎡以上を豊作、50～200個／㎡未満を並作、50個／㎡未満を凶作とし、ミズナラは20個／㎡以上を豊作、5～20個／㎡未満を並作、5個／㎡未満を凶作とし、コナラは40個／㎡以上を豊作、20～40個／㎡未満を並作、20個／㎡未満を凶作とする。

(2) 調査結果

ア　ブナの豊凶予測結果

雄花の調査データが得られた調査地13箇所のうち、豊作が2箇所、並作が7箇所、凶作が4箇所の予測であった（図1）。

イ　ブナ・ナラ豊凶結果

(ｱ) ブナ

落下物の回収ができなかった1箇所を除く調査地15箇所のうち、豊作が2箇所、並作が9箇所、凶作が4箇所であった（図2）。

(ｲ) ミズナラ

トラップが設置できなかった1箇所を除く調査地8箇所のうち、豊作が5箇所、並作が1箇所、凶作が2箇所であった（図3）。

(ｳ) コナラ

調査地11箇所のうち、豊作が8箇所、並作が2箇所、凶作が1箇所であった（図4）。

ブナ調査地のトラップの状況

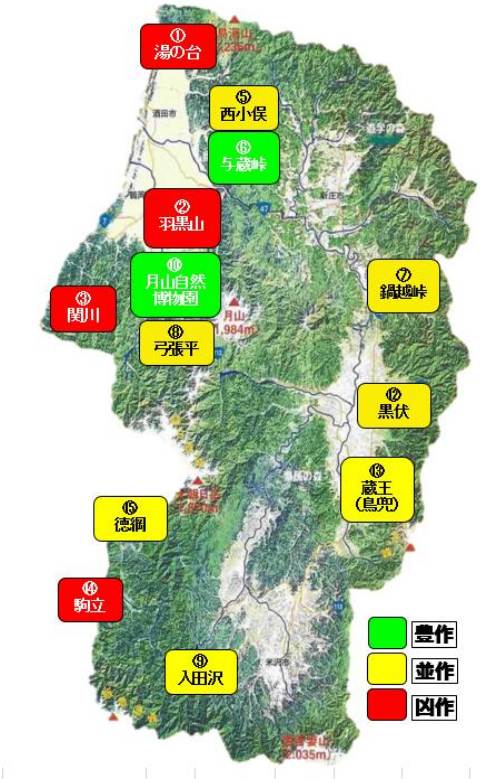

図１　ブナ豊凶予測結果

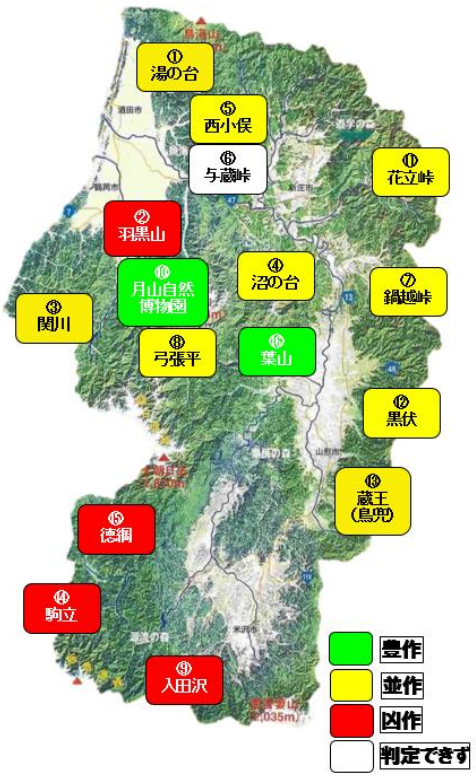

図２　ブナ豊凶結果

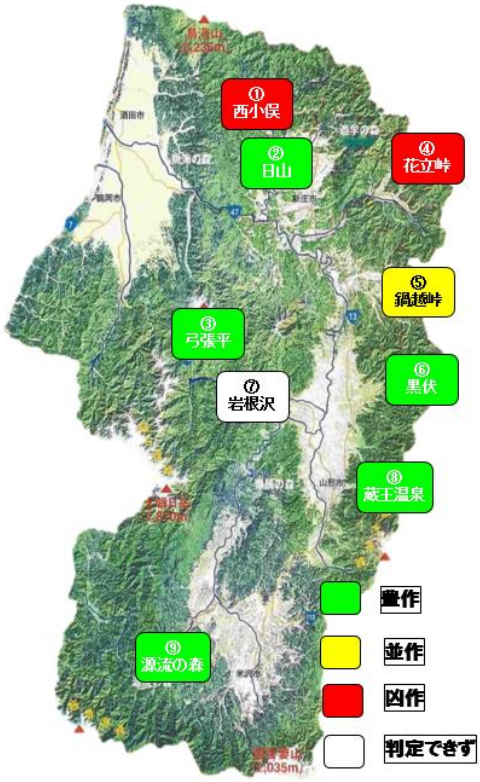

図３　ミズナラ豊凶結果

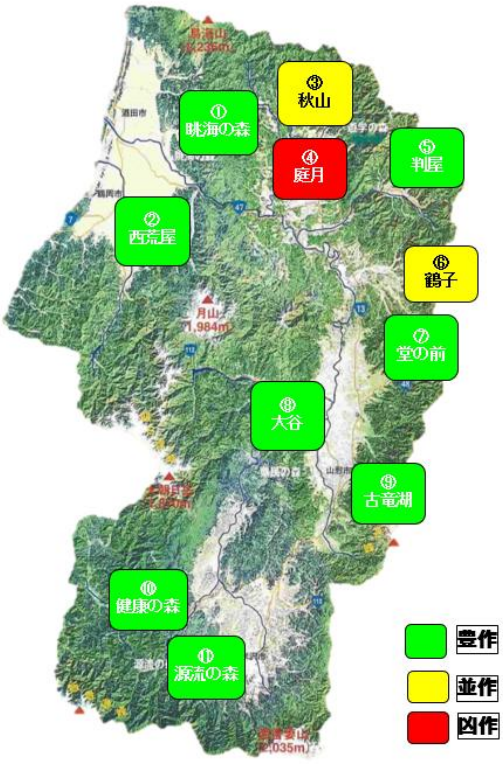

図４　コナラ豊凶結果